

---

## 【講演】「名取市図書館における東日本大震災からの復旧と復興」

(柴崎)

皆さま、こんにちは。私は宮城県名取市図書館の柴崎悦子と申します。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

名取市図書館は、現在は再開発された JR 名取駅前のビルのなかに入っている新しい図書館です。2018 年の 12 月にオープンいたしました。その前は、東日本大震災で図書館が被災しましたので、6 年から 7 年、仮設の建物ですと運営してきました。今日私は、「名取市図書館における東日本大震災からの復旧と復興」というタイトルでお話しさせていただきますが、私の話は、これまで経験してきたことの単なる事例報告に過ぎないと思います。なぜなら自然災害は一つだけではなく、地震もあれば、洪水などの水害、火山の噴火、台風、山火事、いろいろな種類があって、そこからの立ち直り方も一つではないので、こういうことが起きたら、こうすれば大丈夫ですよ、元通りになりますよ、というような話ではないんですね。なので、私の話も、こういう図書館もあるんだ、とその程度に聞いていただければと思います。それでは、ここからはスライドをみていただきながら話を進めてゆきたいと思います。

まず、簡単に私の住んでいる名取市をご紹介しますと思います。私の住んでいる名取市は、宮城県の中央部、仙台市の南に隣接しています。東は太平洋に面していて、形としては東西に細長くて、海から山までであるという、そういうところなんです。面積はだいたい 100 平方キロメートルで、人口が 8 万人にちょっと欠けるくらいです。東日本大震災のときは、沿岸部の閑上（ゆりあげ）地区、閑上というこの地名を聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、閑上地区と仙台空港があるその下増田地区というところが、街がなくなるほどの壊滅的な被害を受けています。

これが閑上の震災当日の写真ですね（スライド：閑上地区の被災写真）。小学校の屋上から撮った写真です。これは仙台空港ですね、これも当日の写真です（スライド：仙台空港の被災写真）。名取市の震度はこのときは 6 強で、津波の高さは 9m といわれています。それから死者は、関連死も含めて 923 人と報告されています。

では、ここからは名取市図書館の、先ほども被災したといたしましたけども、被災状況について簡単に説明させていただきます。名取市図書館は海から 6km 以上離れているので、津波の被害というか、水の被害は全然なかったのですが、建物がとても古かったんですね。この写真は昔の図書館ですね（スライド：旧館の外観写真）。名取市が市になった昭和 33 年に役所として建てられた建物です。市役所は昭和 50 年に別なところに移っているので、図書館は 51 年からこの建物を転用して使っていました。

これは図書館のなかの写真です（スライド：館内の被災の様子・カウンター）。カウンターの後ろの棚が、こんな感じで倒れています。いまみると恐ろしい感じがしますが、幸いこのときは蔵書点検中の休館で、利用者が誰もいなかったのが不幸中の幸いでした。

ちょっと恥ずかしいのですが、みていただきます。これが書庫のなかですが、このようにスチールの棚がみんな倒れました（スライド：館内の被災の様子・閉架書庫）。床固定はしてあっ

て、頭のほうも留めてあったのですが、やはりこのように倒れて本もたくさん落ちました。

それからこれは階段の写真ですが、壁が剥がれ落ちていきます（スライド：館内の被災の様子・階段）。ここだけではなくてすべての壁が、こんな感じで剥がれ落ちました。

これは、左側は一般開架の写真ですが、足の踏み場がないくらい本が落ちていきます（スライド：館内の被災の様子・開架フロアと会議室）。会議室、ここは物置にして使ってたところでしたがこんな感じで壊れました。

そして3月19日には応急危険度判定で赤紙が貼られました（スライド：応急危険度判定の赤紙）。「危ないのでなかに入らないでください」という意味の紙です。

ここからは、私が自分で復旧期ってよんでいるのですが、その復旧期についてのお話をしたいと思います。どこからどこまでが復旧期かと考えているかというところ、震災があったときから仮設の建物が完成して、震災前とほぼ同じようなサービスができるようになったときまで。

2013年3月までが名取市図書館の復旧期だと思っています。

これは復旧期の最後、木造の子ども図書室と、それから、カナダからもらった木造の一般図書室ができあがって2棟並んだところの写真です（スライド：どんぐり子ども図書室・どんぐりアンみんなの図書室外観写真）。

これは2011年3月11日の発災から復旧が終わったところまでの間に、どんな出来事があったのかを表にしたものです（スライド：復旧期の出来事を時系列に並べた表）。3月11日に震災があって建物が壊れて、4月に北海道の石狩市から復旧支援を受けて、5月に臨時開館を始め、10月に南館とよんでいたプレハブの建物を図書館振興財団からもらい、その後日本ユニセフ協会から「子ども図書室」を、カナダから「どんぐり・アンみんなの図書室」をもらって、そして古い建物を解体して、駐車場の整備が終わったという流れです。

では、ここから写真をみながらどんな過程を踏んできたかを、ちょっと詳しくみてみたいと思います。先ほどいいましたように、2011年4月に北海道の石狩市から復旧の支援をもらいました。震災から2週間くらいたったとき、石狩市民図書館の方から「支援に行きたいんだけど」という電話をもらいました。このときはすごく大変な時期だったので迷いましたが、館内で相談して、結局支援を受けることにしました。そこから準備をして、受け入れ体制をいろいろとつくりながら、4月11日に石狩市の方々を迎えました。

実は、振り返ると、このときが一番苦しかったです。私たちは公務員なので、震災直後は、図書館の仕事よりも、むしろ役所の人間として動かなくてはいけなくて、避難所の運営を担当していたんですね。なので、震災から2週間目っていう時期がものすごくきつかったです。そのような時期でした。石狩市の方には、避難所に行ってもらったり、図書館のなかを片付けてもらったりしました。石狩市さんは3週間ほどいたので、前半と後半とでやってもらうことが違っていたのですが、後半はこのように臨時開館に向けての本の片付けなどの作業をしました（スライド：石狩市からの応援の様子・写真4枚）。

その後、先ほどもいったように5月10日に臨時開館を始めました。建物のなかに利用者は入れない状態だったので、このように移動図書館車、BM（Bookmobile）の車庫のなかで、毎日パソコンと長机を持って行って貸し出しを行いました（スライド：臨時開館の風景・写真8枚）。建物のなかには、行くところがなかったので、私たち職員は入っていましたが。

あんまり楽しみがなかったので、夏は七夕飾りをしたり、水ヨーヨーを出したりして、ちょっとお祭りのような雰囲気をつくったりもしました。夏の間はよかったですけど、だんだん寒くなって、この後どうしたらいいのかと心配になってきた頃、図書館振興財団からの寄付の話を見つけたので、お願いしたところ、プレハブの小さい20坪の建物をもらうことができました。ちょうど寒くなる直前、10月の半ばに建てることができ、利用者をようやく建物のなかに入れることができました（スライド：南館の外観写真）。

これが建物のなかの様子です（スライド：南館の内観写真）。外でのときは、風が強かったのですが、新聞を出すことができなかつたのですが、ようやくこのように落ち着いて新聞を読めるような環境ができました。

その後、日本ユニセフ協会の資金援助で「どんぐり子ども図書室」を建てました。これが竣工したときの写真です（スライド：どんぐり子ども図書室の外観写真）。12月24日にできあがりしました。ちょうどクリスマスのときにこのような素敵な木造の建物をもらうことができました。

「どんぐり子ども図書室」を建てるときは、宮城県図書館や saveMLAK が中間支援をしてくれて、日本ユニセフ協会につないでくれたり、東海大学の建築の先生につないでくれたりして、そのおかげでこのようなものができました。この写真は、上の左側はみんなで書架を組み立てている様子です（スライド：「どんぐり子ども図書室」準備作業とオープニングの写真・上段左）。書架は手作りです。右側は本を運び入れている写真ですね（スライド：「どんぐり子ども図書室」準備作業とオープニングの写真・上段右）。このようにして2012年の1月6日にお披露目をすることができました（スライド：「どんぐり子ども図書室」準備作業とオープニングの写真・下段）。私たちもびっくりしたのですが、オープン当日はものすごい数の人が並んで待っていてくれまして、こんなにも図書館を待っていてくれる人がいるんだとすごく感激した覚えがあります。

それで、子ども図書室ができあがったので、次は一般の方、大人の方が入れるスペースが欲しいよねって思っていたところ、建築をくださった東海大学の先生から「カナダ東北復興プロジェクト」というのを教えていただいて、じゃあそれに手を挙げてみましょうか、となりました。名取市は、カナダと中学生の交流事業を行っていたので、カナダには縁があったものですから、手を挙げましたところうまく採択されました。それから1年ほどかかりましたけども「どんぐり・アンみんなの図書室」という建物ができました。「アン」というのは、『赤毛のアン』からもらいました。私たちは、カナダってというと単純に『赤毛のアン』をイメージしたので。これがそのとき、できあがったばかりの「みんなの図書室」のなかの様子です（スライド：「どんぐりアンみんなの図書室」外観と内観写真）。ここの棚もみんなで手作りしました。

このように「子ども図書室」のときは全国から延べ70名、「みんなの図書室」、このときはさらに多くの、延べ250名のボランティアの方々が集まってくれて、オープンに向けて準備してもらいました（スライド：「どんぐりアンみんなの図書室」準備作業とオープニングの写真・上段）。そうして2012年1月18日によりやくオープンすることができました。ものすごく寒い日でした（スライド：「どんぐりアンみんなの図書室」準備作業とオープニングの写真・下段）。ちょっとこの写真では寒さが伝わりませんが、とにかくすごく寒い日でしたが、外で式典

をさせていただきました。

これは先ほどもみていただいた写真と同じですが、手前にあるのが「子ども図書室」で、奥にあるのが「みんなの図書室」です（スライド：どんぐり子ども図書室の外観写真）。駐車場も整備し終わって、古い図書館も解体し終わったというときの写真です。

復旧期といっているのはここまでで、震災から2年です。2年はいま思うと本当に短い。2年間で仮設の建物をつくり、サービスも震災前とほぼ同じようにできるようになりました。とりあえず「よかったよかった」ということで、前と同じように、また利用者の方に戻ってきたいと思いつながりながら運営していました。

これは復興期の最後、完成した名取市図書館の写真です（スライド：名取駅東口の複合ビルの写真）。再開された駅前に、このように新しい図書館ができました。2018年の12月です。

これは復興期の出来事を表にしたものです（スライド：復興期の出来事を時系列に並べた表）。図書館サービスの完全再開が平成25年4月ではなく5月となっているのは、4月にはまだ職員が完全に戻ってきていなかったものですから。開館時間も元通りになって、完全に前と同じようになったのが5月でした。そして、先ほどもいったように、とりあえずは「前に来てくださっていた方に戻ってきてもらおう」ということで動き出したわけです。

その年、平成25年の年度末に、「復興交付金を活用して名取駅前の再開発をする」という話が出ました。名取市は、閑上地区など沿岸部の津波被災が当然大きかったのですが、名取駅前のほうは、地震被害がすごく大きくて、古くからのお店はやめてしまったり、更地にしてしまったりと、かなり元気をなくしていました。そこに元気を取り戻そうということで、「復興交付金を活用して再開発をしましょう」という話が持ち上がったのです。2013年度末くらいです。

表の2段目、2014年、平成26年の11月に「新名取市図書館施設整備検討委員会発足」とありますが、今度は「新しい図書館つくる」という話が進み、市民や学識経験者の方々を入れて10人ほどの委員会を立ち上げました。そして、その年の12月に、『新名取市図書館整備基本計画』の改訂版を策定しました。実は名取市では、震災前から駅前に新しい図書館をつくるという計画がありました。駅前を再開発して移転するという計画が平成20年のときからあったので、すでに一度計画をつくっていたんですね。ただ震災を挟んでしまって、さらに何年も過ぎていたので、少し見直しをして新たにつくったのがこの改定版です。

そして、平成27年には内装設計を行いました。その後、1年ほど間が空きましたが、平成29年に本体工事の着手、内装工事の着手。それから平成30年には友の会が設立、平成30年の10月竣工、12月にオープンという、このような過程をたどってきました。

ではここで、現在の図書館を、簡単にご紹介いたします（スライド：名取市図書館の紹介）。面積は約3,000㎡、収蔵能力は30万冊で、現在は21万冊ほどあります。座席数は約250席です。開館時間は、火曜から金曜は朝9時から夜の7時まで、土日は6時までです。ここに書かれていませんが、実は早朝の開館も行っていて、朝7時30分から、一部のエリア、「カフェコーナー」とそこから続く「新聞・雑誌コーナー」は朝7時30分から開けています。ただいまはコロナ禍で、カフェの営業時間が短縮されているので、早朝開館はお休みしています。普通のときは7時半から開いているので、通勤前にちょっと図書館に寄って、コーヒーを飲んだり、モーニングを食べたり、新聞読んだりして、それから出勤されるという人もいます。

この写真は館内の様子です（スライド：2階部分の館内写真8枚）。左上は入口ですね。駅の改札からまっすぐペDESTリアンデッキを歩いてくるとここに着きます。1分もかからないので、とても便利なところ。なかに入るとすぐ左手にカフェコーナーがあります。下段の写真は、入口の自動ドアから入ってなかをみたところですね。

奥に行くと児童コーナーになっていて、「おはなしのへや」などもあります。この「おはなしのへや」は結構広くて、おはなし会をゆったりとした感じで開催することができます。それからCD・DVDのコーナー、この近未来的な丸椅子がブースになります。ここに座って観ていただきます。さらにバックヤードにはこのようにボランティアルームもあって、ボランティアさんたちが常時活動しています。

ビルの2階3階が図書館なのですが、図書館の上の階はまた雰囲気がガラッと変わって、床はこのようなカーペットでシックな感じになっています（スライド：3階部分の館内写真4枚）。2階3階と二つのフロアを使っているので、二つのフロアそれぞれにコンセプトがあります。2階は「にぎやかなフロア」というコンセプトで、子どもや赤ちゃんが泣いたりしても大丈夫、カフェでお話ししても大丈夫ですよ、と。また床はフローリングで、暖かい雰囲気をだしています。静かに過ごしたい人は上へどうぞ、ということで「静寂のフロア」というコンセプトになっています。フロアの真ん中にこのようなアイランド型のカウンターがあります。奥には情報発信コーナー「名取の宝ばこ」というのがありますが、これは郷土資料を置いているところです。

設計で大事にした基本計画のメインコンセプトが、この三つのキーワード「やすらぎ・つどい・ひろがる」です（スライド：『新名取市図書館整備基本計画』メインコンセプト）。この三つのキーワードを大切にしながら設計しました。

これは図書館サービスの基本方針です（スライド：図書館サービスの基本方針）。先ほどの三つのキーワードはもちろん大事にしながら、基本方針、この五つの方針も大切にしました。このなかには、市民とか地域、そのような言葉を入れています。市民の生涯にわたる自主的な学習を支える図書館。地域の課題解決を支援し、まちづくりを支える図書館。学校・家庭・地域を結び、地域の教育力向上を支える図書館。地域文化を大切に、新たな文化の創造を支える図書館。情報と人、人と人をつなぎ市民と共に歩む図書館。市民や地域ということを特に大事に考えました。

これはワークショップの写真になりますね（スライド：平成26年度「ライブラリーミーティング」の写真4枚）。上の2枚は、最初に行った「ライブラリーミーティング・ヤングセッション」というワークショップです。2014年の9月に開催しました。高校生、大学生の若い人たちを対象にしたワークショップでしたが、このときのテーマは「私たちが還りたくなる図書館」。進学とか就職で、いったん名取を出て仙台とか東京などいっても、戻ってきたときにまた「図書館にいつてみたいな」という、そんな図書館ってどういう図書館だろうということ、若い人たちに考えてもらいました。このときには本当におもしろいアイデアをたくさん出してもらいましたが、そのなかのいくつかは今の図書館に反映されています。

下の写真は「出張ライブラリーミーティング」というのを行ったときの写真です。2015年の2月に1ヶ月ほどかけて、名取市内19ヶ所でライブラリーミーティングを開催しました。公民

館が10館と、そのときはまだ仮設住宅がありましたので、仮設の集会所。そういうところを回って、皆さんとお茶を飲みながら、図書館についていろいろ話し合いをしました。このときには、考えさせられることがすごくたくさんありました。公民館に集まってくださった方は、「名取市の図書館が新しくなりますよ」って呼びかけて来てもらったのですが、それぞれに皆さん意識の高い方ばかりで、厳しいご意見も頂戴しましたが、図書館の建設に関してものすごく前向きなご意見をたくさんいただきました。反対に、仮設住宅で行ったときには、たまたまそこにいた方に集まってもらったという形だったので、図書館を知らないという方がほとんどだったんです。図書館のなかにはばかりいると他がみえなくなって、みんな図書館を使っているんだ、と錯覚していたところがあったと思うのですが、冷静によーく考えてみると、名取市民約8万人いますけども、実際使ってる方って1割とか2割とか、本当に少ないはずなんです。ほとんどの方、多くの方は図書館を使わずに生活をしている。図書館というものをよく知らないという方がたくさんいるんです。特に仮設に住んでいる方は、図書館を全然知らない人が多かった。「図書館って難しい本しかないんでしょ。」とか、雑誌があるっていうことをお話しただけでびっくりされたり、ただで本を借りられるっていうことをいっただけで、「え？そうなの」っていわれたり。「あー、そうなんだ」って改めてそのとき感じました。

そのようなワークショップもやりながら、新しい図書館ができる前年度に友の会の立ち上げっていうのを視野に入れたライブラリーミーティングを開催しました。「名取市図書館と協働してなにができるかを考えてみましょう」ということで行ったのが、このライブラリーミーティングです（スライド：平成29年度「ライブラリーミーティング」）。3回開催しましたが、たくさんの方が参加してくださいました。この3回のライブラリーミーティングが終わったあと、このワークショップに参加してくれた方のうちの何人かが発起人となって、友の会設立の準備会を立ち上げて、数ヶ月かけて設立に向けての準備を行い、5月に正式に友の会が発足しました。このときも、参加された方もそうですが、私も本当にすごくたくさんの方のことを学びました。

このようなことを行いながら、2018年の12月19日に新しい名取市図書館がオープンしました（スライド：新図書館オープン記念式典の写真）。ビルのグランドオープンに合わせて図書館を開館するということでしたので、10月31日に引渡しを受けてから、2ヶ月弱で開館しなくてははいけませんでした。ものすごく大変でしたが、頑張ってやりました。オープンの日はずごくいい日で、天気がとてもよかった、ということが思い出されます。

この辺でまとめに入らなくてはいけないのですが、まとめとして、「震災からの復旧・復興を後押ししたもの」と書きましたが、ちょっとうまい言葉がみつからなくて。復旧・復興のプロセスはこれまでご紹介したとおりなのですが、そのベースとなったもの、私たちのやってきたことを後押ししてくれたものってというのがあって、そのベースがあって、いろいろなことが実現してきたわけです。それで、そのベースとは一体なんなのだろう、と考えて書き出してみたのが、この三つです（スライド：震災からの復旧・復興を後押ししたもの）。「柔軟で、かつ楽観的、希望的な考え方」、「新たなつながりとコミュニティ形成」、「目標を達成したときの喜び」。漠然としているので、一つ一つなぜこのように思ったのかをお話しします。

まず、「柔軟で、かつ楽観的・希望的な考え方」。いま振り返ると、当時、私たちは強いこだ

わりというものをあまりもっていなかったような気がしています。直感的にいい話だと思えばすぐに飛びついたし、あるいは「もうこれダメ」と思ったらすぐに諦めました。「楽観的・希望的」と書きましたけれども、それは私たち職員がみんなそんなキャラクターだったからなのか、それとも、もう建物を失ってしまうっていう、どん底までいってしまったので、あとは上をみるしかないと思ってそのようになったのかわかりませんが。結果的にすごく楽観的だったなと思います。

これまでお話しした事例のなかにはなかったのですが、一つご紹介したいと思うことがあります。これは私が「名取市図書館の復興の歩み」みたいなお話をさせてもらうときに、あんまり言ってこなかった話で。どちらかというと「建物ができました」、「新しい建物をつくってこうなりました」、ということばかりで、あまり話したことがなかったことなのですが、実は「どんぐり子ども図書室」をつくっている最中、本当に建てている最中の11月に、「図書館絆まつり」というすごく大きなお祭りを開催しているのです。そのときは震災から6ヶ月とか7ヶ月とかというときなんですけど、そのときまでに、もうすでにいろんな方からものすごくたくさんの支援をもらったので、そういう支援してくれた人たちに感謝しましょう、感謝の意味を込めたお祭りを開催しましょう、と行ったものでした。支援してくれた方に「お祭りするから一緒にやりませんか？」っていったら、皆さんすごく喜んで、本当に遠いところからも駆けつけてくれました。例えば、札幌からは在アメリカ領事館の職員さんが来てくれて、子どもたちに英語でおはなし会してくれたりだとか、石狩市の飲食店グループの人たちが来て、石狩鍋をつくって振舞ってくれたりだとか。それから、一番大きかったのは、東京FMの方々が女優の室井滋さんに声をかけて呼んできてくれて、室井滋さんのおはなし会をすることができたんですね。あとは、東京のほうからアニマシオンをやっている方も来てくれましたね。そんなふうに遠くから来てくれた方もいましたが、同時に名取市内で図書館を想って活動しているお話のグループの方々も参加して、おはなし会や工作をしたりと、2日間かけて、市の文化会館をほぼ借り切って開催しました。2日間で延べ1,200人ぐらいの方が来た大きなお祭りを、「どんぐり子ども図書室」をつくっているときにやった、そんなことがありました。

このお祭り、実は「最初にやりたい」といつてくれたのは石狩市の図書館でした。そのとき、このアイデアにすぐ飛び乗ったっていうのも、私たちはきっと楽観的だったんでしょうね。どうにかなるだろうという考えだったから、このようなお祭りを成功させることができたんだろうなと思います。この成功体験が、後々の私たちの活動に影響を及ぼしてくれたと思っています。この大きなお祭りが成功したということが自信になって、「子ども図書室」、カナダからの「みんなの図書室」につながっていったのです。

次の「新たなつながりとコミュニティの形成」というのは、もちろんボランティアのことをいっています。全国からたくさんのボランティアが来てくれて、日本全国にもたくさんのつながりが生まれました。全国あちこちで活動している図書館関係者の人とつながることができたので、新しい図書館をつくる時、つながりができた方々からたくさん協力をもたらすことができました。すごくありがたかったです。また、名取市以外の全国の方だけではなく、名取市民の方々との新たなつながりというのもできました。これはどういうことかということ、市民ボランティアさんのことです。先ほど友の会ができたという話をしましたが、この友の会、もとも

とは、震災後に私たち職員が少なくなって大変だったときに、自然発生的に集まってくださった方々が始まりなんです。その自然発生的に集まってくれたボランティアの皆さんがグループになって、それがいまの友の会に結びついているのです。そういうわけで、「コミュニティの形成」と書いています。

「目標を達成したときの喜び」というのは、一つ一つのことを達成したときの喜びがモチベーションになって、復旧・復興してきたと思っているんです。実は先日、永田先生から、「復興を進める上での六つのポイント」というのをご紹介いただきました。私この六つのポイントをみせていただいたときに、共感というか、ものすごく実感するものがありました。どういうものだったのかというと、「どこに行っても通用する処方箋はない」、もう本当にそのとおりだと思いました。それから「災害が社会のトレンドを加速している」、「復興が従前の問題を深刻化させて噴出させる」、「復興の過程でコミュニティの力をどう引き出せるか」、それから「復興で用いられた政策は過去に使ったことのあるもの」、「復興に必要な四つの目、+a, バランス感覚」。私、すごく納得できました。冒頭でもいったように、私がこれまでに経験してきたことは、同じようにやったからといって、元通りになれるとか、復興できるというものではないんです。もしこれから、なにかに備えるというときには、この六つのポイント（世界の災害復興事例からみた「災害復興の6法則」（加藤孝明））っていうのも、知識として押さえておくことも必要なんじゃないかな、ということを感じました。ということで、私の今日の話はここでおしまいにさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

---

---

（永田）

ありがとうございました。それでは次に鳥取県立図書館の三田さんにお話を承ろうと思います。ご用意ください。質問等はチャットに入れていただくとありがたいです。